
アツシの平凡な日々

kochikameファン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

アツシの平凡な日々

【ISBN】

N34130

【作者名】

kochikameファン

【あらすじ】

やることのないまま過ごしているアツシ。

そんなアツシに、なにか転機が訪れるのか！？

アツシの平凡な日々へ

俺の名前は北沢篤。毎日毎日学校へ行き、暇さえあれば一人で漫画喫茶。今俺には財力もない。休み(やすみ)の日には家で寝転ぶだけ。あと驚けるような出来事すらない。実にバツとしない人生だ。

そんな退屈人生を送りながら、とりあえず語つてみる。。。暇ならゲームでもやれ、って? そういわれても俺には何もない。ゲームもない、パソコンもない。家に帰れば、せいぜいの暇つぶしといえばテレビくらいなもんだ。まあ家にいるより、学校の友人と話してたほうがよっぽど楽しい。

【2010年10月16日】

朝の8時。今日は土曜日だったから学校はなかつた。家でテレビを見ていたら電話がかかってきた。

「あつちゃん、暇なら俺んち来ないか?」友人の小森雄一からだつた。

「暇なら」って、俺が暇なことを前提に話しているじゃないか。と突つ込みを入れたいと思いつつも、

「ああ、いいよ」と答えた。結局暇なんだな、と思われても、まあしょうがない。

通話を終え、とりあえず出かける準備をしていた。「ん? までよ?」俺は何かを忘れている。

なんだろう・・・あれ、そういうえば雄一の家に行く時間を決めていなかつた。もう一度電話を・・・いや、集合の時間以前に大事なことがあつたはず・・・。

考えていたら、また電話がかかってきた。やっぱり雄一からだつた。

「そりいえばあっちゃんって俺んち来たことないけど場所分かるか？」雄一は言つた。

そうだ。あいつんちの場所が分からなかつたんだ。ようやく気づいた。

「ああ、場所わからんないから、どこかの駅で待ち合せしようぜ、時間がどうする？」

「えつと・・・じゃあとりあえず大内駅に11時集合でいいか？」

「オッケー、じゃあ後でな」俺はそういうて電話を終えた。こういつた暇な日には友達と過ごすのも悪くない。家にいて、親に怒鳴られるのに比べたらぜんぜんいい。

雄一の家にはゲーム機がいつぱいあるそうだ。俺なんか、金持ちはなんでもないから、ゲームはおろか、漫画も買えないくらいの金欠だった。だからこそあいつの家で、思う存分ゲームで遊びたい。

まあそんなわけで、待ち合わせの場所の大内駅までは、電車を使わずに、自転車で走ることにした。自転車だと大内までどん位かるんだろう？？というより、大内までの道のりをよく把握していい。しううがないから、携帯で地図検索をしてみた。すると、俺んちから大内駅までは、8キロの距離があつた。自転車なら30分で着くかもしれない。友達んちに行くんだから菓子くらいは持つて行こう。コンビニで貸し買う時間も入れて、40分あれば大内駅にいける。よし、じゃあそれでいいこつ。

時計を見たら9時だつた。出かけるまで時間がある。そりいえば朝飯も食つてない。親もまだ寝ている。しかたないから外食に行く

「とにかく。とりあえず親の財布から1000円を取った。

学校以外の用事で外に出るのは結構久しぶりだった。朝の空気は気持ちいい・・・とはいっても、すでに日は昇り、外もだいぶ騒がしくなってきた。あまり朝の空気とは言えないだろう。とりあえず、近くの

マックで、チーズバーガーとチキンを食った。こんな少量なのに結構腹の足しになる。財布には優しい。
時間があつたから、マックでのんびりしていた。

時計を見ると、10時になっていた。そろそろ戻らないとやばい。

家に戻つたころには、10時10分になっていた。あと10分で出ないと、時間には間に合わない。急いで準備して、とりあえず、ちょうど10時20分になつたころで出発した。

自転車を走つていると、秋の風が当たり、涼しかった。夏でも冬でもないこの季節は、実に丁度いい。

そんな中で、近くのコンビニでお菓子を買い、地図検索で出たルートを頼りに、駅まで向かつた。

何事もなく駅に到着できた。11時の5分前に着くことができた。雄一はまだ見あたらない。

通勤ラッシュの時間帯は過ぎたが、まだ黒いスースを着たサラリーマンたちが、次々と改札を通り過ぎていた・・・。

11時を回つた。雄一はまだ来ない・・・

アッシの平凡な日々～～（後編）

この続きは、「アッシの平凡な日々～～」にてお送りします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3413o/>

アツシの平凡な日々

2010年10月16日16時39分発行